



## 立場と役割

～風通しの良い職場であるために～

皆さんはどんな立場で仕事をしていますか？

どんな役割で仕事をしていますか？

今回は、**立場と役割**について考えたいと思います。

### 「立場」と「役割」

『肩書きではなく役割で仕事をしよう…』

この言葉は、自動車メーカー「トヨタ」のCMで豊田章男会長が話していた言葉の一説ですが、私はこの言葉を聞いて、教育現場であれば「立場ではなく役割で仕事をしよう」かなあ…と思った記憶があります。

「立場」とは、①人の立つ場所。立っている所、②その人が置かれている地位や境遇。また、面目、③その状況から生じる考え方、であり、「役割」は、①役目を割り当てること。また、割り当てられた役目、②社会生活において、その人の地位や職務に応じて期待され、あるいは遂行しているはたらきや役目の意味があります。【コトバンクより】

「立場ではなく役割で仕事をする」という考え方は、教職員の仕事にも当てはまるのではないのでしょうか？

### 役割で仕事をするということ

教員は、学校目標に向かって自分に与えられた役割を進めていきます。

こんなことは当たり前のように感じますが、忙しかったり、時間に追われたりすると、「進めること」自体が目標になってしまい、つい自分の「立場」で物事を考え仕事をしてしまうことがあります。「チーフの意見は絶対」「後輩は先輩に従って当然」と自分の「立場」を優先して考え上から目線で仕事を進めてしまう…。苦しくなった時、人として仕方がないことかもしれません。でも、役職や経験年数から自分の役割を正しく認識して仕事をするだけでは忘れずにいたいものです。

### 「立場」の視点は「子ども」でありたい

教員の仕事をしていく上で大切なことは、子供たちの「立場」に立って仕事をする事です。肩書きや役職、先輩・後輩といった「立場」が優先されるべきではないと思います。役職や先輩後輩の関係といった「立場」ではなく、子どもたちの「立場」に立ち、子どもたちのために与えられた役割を遂行していくことが重要だと思います。

もちろん、組織を構成していく上で、肩書き（役職や立場）というヒエラルキー（階層）はある程度必要かもしれません。しかし、それがカースト（絶対服従）になってしまっはいけないと思います。

### おわりに

今回は「立場」と「役割」についての話でした。

**自分の「立場」を考えて仕事をするのではなく、常に子どもたちの「立場」で考え、学校目標の達成に向けて自分の与えられた「役割」を遂行していく。**どんな相手に対しても礼儀や礼節を考えつつ、しかし自分の役割に応じた考えは臆せず伝えていくことが大切であり、私たち一人一人がそれを実現できるようにしていくことが重要であると思います。

私も、「実ほど首（こうべ）を垂れる稲穂かな」の気持ちを忘れず自分に与えられた役割を遂行し、風通しの良い職場環境づくりをしていきたいと思っています。